



# 秋田県立ゆり養護学校 道川分教室 教育プラン

## I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

### ◇ 県内の病弱特別支援学校の一つ

- 本校は「独立行政法人国立病院機構あきた病院」の重症心身障害児（者）病棟に入院中の児童生徒を対象として、病院から職員室と学習室（2室）の施設を借用し、訪問教育を行っている。高等部生には過年度卒業生も含まれている。教育課程は自立活動週 14 単位時間（経口での食事指導のある児童生徒は 16 単位時間）である。
- 児童生徒の実態や病状、配慮事項等について、病棟の医師・看護師・リハビリ担当者ときめ細かく情報交換しながら教育活動に当たっている。また I C T の活用及び地域の小・中学生やボランティアとの交流、作品展示などを通して、児童生徒の経験の拡大や理解啓発に努めている。
- 全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟に加盟し、病弱教育に係わる研究会への参加や情報収集、情報提供を行い専門性の向上に努めている。

### ◇ 学校を取り巻く将来の状況の予測

- 未就学児、学齢児の入院がほとんど見込まれないため、児童生徒数の減少が予測される（平成 30 年度 9 名、33 年度には 2 名程度になる見込み）。

## II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

### ◇児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培う(教育目標)

- 重度・重複障害教育について、これまでの実践に基づいた実態把握及び教育内容、方法の整理を行い、より一層の授業の充実を目指す。
- 重度・重複障害教育における I C T の活用を進め、効果的な活用事例を整理・蓄積する。

### ◇病弱教育にかかわる専門性を備え、情報の蓄積と発信ができる学校

- 全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟の加盟校という立場で様々な情報を収集し、県内関係機関や関係校のニーズに応じて積極的に情報発信を行う。
- 県教育委員会による病弱教育に関するネットワーク構築に協力する。

### Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

#### ◇児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培うために

- 複数の目で行う的確な実態把握と、児童生徒本人の願いを反映させた指導計画の作成。
- 児童生徒全員を対象にしたケース検討会や授業研究会に基づく、より一層の授業改善。
- 様々なグルーピングによる集団学習、交流等(年5回程度)、多様な教育活動の展開。
- インターネットを活用した双方向同時中継やタブレット型端末の活用等、ICTの積極的な活用。
  - ・日常の学習での活用
  - ・ベッドサイド学習の児童生徒の行事等への参加
  - ・本校・分教室間や県内外特別支援学校、地域の学校との交流等
- 保護者、病院関係者、地域への積極的な情報発信
  - ・「みんなの登校日」、介護等体験、ボランティアの受け入れ、校外学習等における直接的な交流
  - ・フォトギャラリー(病院内)、学校展、地域の施設でのミニ学校展(6カ所程度)
  - ・ホームページによる情報発信
- 個別の移行支援計画に基づく、高等部卒業生に対する支援(卒業後の1年間は継続的に実施)。
- 高等部卒業生のつどい「はなますのつどい」の実施(年2回)。

#### ◇病弱教育にかかわる専門性を備え、情報の蓄積と発信ができる学校づくりのために

- 全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟加盟校として
  - ・研究協議会への参加および実践発表
  - ・得た情報の発信、県内関係校のニーズに応じた情報提供
- 外部講師を依頼しての授業研究会または研修会の実施
- 医療・福祉等の関連領域も含めた研修や情報共有による職員一人一人の専門性の向上
  - ・病棟研修、リハビリ参観、院内研修会への参加
  - ・自立活動の研修等を通じた職員間の情報共有とスキルアップ
- 県教育委員会による病弱教育に関するネットワーク構築への協力
  - ・県内各特別支援学校との連携と情報共有による情報提供や相談支援
  - ・病弱虚弱特別支援学級への情報発信と相談対応等
  - ・養護教諭等への情報提供と相談対応等

### Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

#### ◇児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培うために

- 複数の目で行う的確な実態把握と、児童生徒本人の願いを反映させた指導計画の作成。

**教務、研究（全員）**

- 児童生徒全員を対象にしたケース検討会や授業研究会に基づく、より一層の授業改善。

**研究**

- 様々なグルーピングによる集団学習、交流等（年5回程度）、多様な教育活動の展開。

**教務、保健・指導**

- インターネットを活用した双方向同時中継やタブレット型端末の活用等、ICTの積極的な活用。

**総務・情報、教務、保健・指導**

- ・日常の学習での活用
- ・ベッドサイド学習の児童生徒の行事等への参加
- ・本校・分教室間や県内外特別支援学校、地域の学校との交流等

- 保護者、病院関係者、地域への積極的な情報発信

**教務、総務・情報、保健・指導**

- ・「みんなの登校日」、介護等体験、ボランティアの受け入れ、校外学習等における直接的な交流
- ・フォトギャラリー（病院内）、学校展、地域の施設でのミニ学校展（6カ所程度）
- ・ホームページによる情報発信

- 個別移行支援計画に基づく、高等部卒業生に対する支援。（卒業後の1年間は継続的に実施）

**保健・指導**

- 高等部卒業生のつどい「はなますのつどい」の実施。（年2回）

**保健・指導**

#### ◇病弱教育にかかわる専門性を備え、情報の蓄積と発信ができる学校づくりのために

- 全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟加盟校として

**研究**

- ・研究協議会への参加および実践発表
- ・得た情報の発信、県内関係校のニーズに応じた情報提供

- 外部講師を依頼しての授業研究会または研修会の実施

**研究**

- 医療・福祉等の関連領域も含めた研修や情報共有による職員一人一人の専門性の向上

**教務、研究、保健・指導（全員）**

- ・病棟研修、リハビリ参観、院内研修会への参加
- ・自立活動の研修等を通じた職員間の情報共有とスキルアップ

- 県教育委員会による病弱教育に関するネットワーク構築への協力

**教務（全員）**

- ・県内各特別支援学校との連携と情報共有による情報提供や相談支援
- ・病弱虚弱特別支援学級への情報発信と相談対応等
- ・養護教諭等への情報提供と相談対応等